

令和7年度 大田区立赤松小学校 授業改善推進プラン

- ・関係法規
- ・東京都教育目標
- ・東京都教育ビジョン（第4次）
- ・大田区教育目標
- ・おおた教育ビジョン

- 学校教育目標
- つよくたくましい赤松の子
 - よく考えくふうする赤松の子
 - こころゆたかな赤松の子

- ・学校、地域の実態
- ・地域の期待や願い
- ・保護者の期待や願い
- ・期待される児童像

大田区教育研委員会
教育研究推進校

「未来に向けてともに学び 地域とともに歩む赤松小学校」

・大森第六中学校
との小中一貫教
育の推進

学習指導要領の趣旨を踏まえ、これまで研究を重ねてきたESD（持続可能な開発のための教育）を推進する。児童のウェルビーイングを高め、知・徳・体の調和のとれた生きる基盤を培うために、一人一人の個性と能力を発揮するための力を育成する。

- ・基礎的・基本的な内容の確実な習得とその活用・探究の力を育成するための授業の質的改善
- ・自ら課題を設定し、柔軟に考え、豊かに表現する問題解決学習の日常化
- ・個性や能力に応じた指導の充実を図るための指導体制の工夫・改善と全教員による組織化
- ・言葉を大切にし、対話を通したコミュニケーション能力、思考力の育成

各教科の指導の重点

学習指導要領と同様に ESD の視点を重視し、全教育活動を推進する。

指導形態を工夫し問題解決学習や体験学習の充実の下、一人ひとりの児童に基礎的・基本的な学力の確実な習得と思考力・判断力・表現力や創造力等の向上を図る。

総合的な学習の時間の指導の重点

ESD を充実し、創造的な資質・能力を育てるために、学習過程を工夫する。

「かわり・伝える力」「見だし・探究する力」「気付き・生かす力」の育成を図る。特に、環境教育・国際理解教育・ボランティア教育・食育の推進、地域との連携を推進する。

研究主題 ウェルビーイングを高めるこどもの育成 ～自己肯定感と自己実現、協働性と利他性の向上を 目指した指導の工夫～



自己肯定感の向上や自己実現を通して自分や他者の幸福感を高める。人とのつながり、関係性を大切にし、協働性や利他性を高める。これらのことで学力向上につなげる。

本校における『問題解決の力』

- ① 問題を見いだす力
- ② 計画を立て、実行する力
- ③ よさを認め合い、高め合う力
- ④ 自分の変容に気付き、次に生かそうとする力

特別の教科 道徳の指導の重点

多様な指導方法を取り入れた授業を展開し、「考え、議論する道徳」の充実を図る。「規範意識の向上」と「思いやりの心を育む」ことを教育活動全体を通して行い、生命、人権、個性を大切にすると人間尊重の精神の育成を重視する。

また、開校 146 周年の歴史と伝統を重んじ、郷土愛、愛校心の育成にも努める。さらに、ボランティア、障がい者理解、日本人としての自覚や誇り、豊かな国際感覚等の資質の育成を努める。

道徳授業地区公開講座の活用を図るとともに実践への意欲を高める。

特別活動の指導の重点

異学年集団での関わりを重視し、児童一人ひとりがめあてをもち、主体的に活動することを通して活動の喜びを味わいながら、希望や目標をもって生きる態度、心身ともに健康で安全な生活態度、他を思いやり協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

進路指導に関わる指導の重点

児童一人ひとりのよさや可能性の発見に努め、肯定的な自己理解を促す指導を進め、希望や目標をもって生きる態度を育む。

生活指導に関わる指導の重点

『赤松スタンダード』を基に、基本的生活習慣と新しい生活様式の定着を図り、自他の生命、人権、個性を尊重し、思いやりやいたわりの心、規範意識を育てる。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容、指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携
●学習指導要領に則り、ICT を活用した習得型・活用型・探究型の学習をバランスよく配置する。 ●問題解決の過程をもとにした学習の実践をする。 ●全教科で創造的な資質・能力を高めるための年間計画を作成する。 ●算数は全学年で習熟度別少人数指導を行い、ステップ学習を充実させる。 ●全学年でALT による外国語教育を充実させ、国際理解教育を推進する。 ●大田区学習効果測定や各種調査の結果を分析・検討し、活用する。 ●巡回指導教員等との連携を図り、特別支援教育を充実させる。	●行事の精選、特別時程の設定を通して時数の確保を図る。 ●週2回朝『読書タイム』を実施し、読書習慣の定着と読解力向上を目指す。 ●年間6回補習教室を設定し、基礎・基本の確実な習得と学力向上を図る。	●「ウェルビーイングを高めるこどもの育成」を研究テーマに、児童の自己肯定感や自己実現、協働性や利他性の向上を目指す。 ●教科「おおたの未来づくり」の充実を図る。 ●OJT の日常化・組織化のための体制を充実させ、職層に応じた役割を確実に担う。 ●校外の研修成果は資料提供、ミニ講習会、職員会議時の報告等で校内に還元する。	●学習カウンセリング（三者面談）を実施する。 ●指導と評価を一体化して捉え、A・B基準を明確にして指導にあたる。 ●相互評価（ハンドサイン）を有効活用する。 ●保護者による授業評価を公開日や授業参観日に実施する。	●『スクールサポートあかまつ』と連携し、ボランティアの組織化の拡充を図り、地域人材等外部の教育力を有効活用して、児童の多様なニーズに対応し、柔軟な学習過程が編成できるよう創意・工夫と積極的推進を図る。 ●保護者ボランティアを計画的に活用する。 ●保護者会、ホームページ、学年・学級便り等の充実を通して、保護者への説明責任を確実に果たす。

国語科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

現2年	現4年
・文字指導では、字形、読み方、筆順、使い方の練習を繰り返し行った。ミニテストを繰り返しながら、覚えていない漢字が減っていくようにした。 ・登場人物の気持ちや場面の様子を考えながら、物語を読み進め、平行読書を行い、さまざまな物語の場面を想像できるようにした。 ・観察記録を書く単元の学習において、観点を整理して取り組んだことで、見たことを具体的な数値や他の物と比べて表すことで、詳しく書くことが定着してきた。 ・小グループや全体の場で発表する機会を設けることで、話し方、聞き方を意識するようになった。 ・読み聞かせなどを通して、物語や昔話の楽しさを伝え、読書への意欲を喚起できた。 ・相手に伝わるように文章を正しく書き表す点で課題が残る。 ・話の聞き方についても、相手の思いを考えながら聞くことに課題が残る。 ・漢字の定着にも差が出ている。	・漢字学習は、繰り返し学習を行い、間違えた字を正しく直す練習をしてきたが、とめ・はねを意識して書くことや、学習の定着には個人差があり、課題が残る。 ・筋道を立てて話す力や、相手に伝わるように文の形で話す力が育つように、日直による朝のスピーチや発表する機会を設けて指導を重ねてきた。 ・目的を意識して話題を集め、相手に伝わるように理由や事例を挙げながら話の中心を明確にする力、内容のまとまりをつくって文章を構成して考えられる力がつく力を課題として、今度も指導を続けていく。
現3年	現5年
・新出漢字については、漢字ノートの確認を徹底し、字形や書き順を指導したが、定着には個人差があり、課題が残る。 ・書く活動全般通して、書く内容の中心を意識して、伝えたい内容を明確にすることを意識するようになった。 ・話すこと・聞くことでは、朝のスピーチや発表会などで多くの場面を設けたが、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ力はまだ個人差がある。	・音読や発表において、相手に伝わるように順序を考えて話すこと、声の大きさや速さなどに気を付けることを指導してきたことで、自分なりに表現を工夫して読んだり発表したりできるようになってきた。 ・漢字を正しく書くこと、漢字のつくりなどの理解は個人差が大きく課題である。 ・文章を書くことにおいて、相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にして書くことが課題である。内容については事実と考えを区別して文章を書けるようになってきた。
	現6年
	・説明・手順や発言を正しく聞き取ること、意図を捉えることを意識させたことで、日常的に取り組めるようになった。 ・文章を書く際には既習の漢字を使っていくように指導したが、全体的にまだ不十分である。 ・「はじめ・中・おわり」の構成を繰り返し指導したことで、自分の意図を読み手に分かりやすく伝える文章を書くことができるようになってきた。

2 「大田区学習効果測定」結果の分析

4年	5年	6年
・正答率の目標値を「基礎」「活用」とともに上回っている。 ・「漢字を読む」は目標値を上回っており、9割を超えていた。	・正答率の目標値を「基礎」「活用」とともに上回っている。 ・領域別正答率では、「文章を書くこと」には個人差がある。	・正答率の目標値を上回っている。 ・「書くこと」以外は目標値を上回っている。

3 授業改善策

全校の取り組み	
・文字・漢字指導では、字形、読み方、筆順、使い方の練習を繰り返し行う。小テストを行い、習熟の徹底を図る。 ・学年に応じて「聞き方」「話し方」のポイントを掲示したり、スピーチなど全体場で発表する機会を設けたりして、「話す力」「聞く力」を高める。「話す力」では、発言の仕方（相手によく伝わるような声の大きさ、要点を絞った内容）を身に付けさせる。「聞く力」では、話し手を見る、最後まで聞く、相手が発言し終わってから質問や意見を伝えることを徹底する。 ・読書では、発達段階により本の紹介や読み聞かせを行い、読書の楽しさを積極的に伝える。	
1年	4年
・ペアでの意見交流をしたり、スピーチ等全体場で発表する機会を設けたりしながら、「話すこと・聞くこと」の力を高める。 ・平仮名、片仮名、漢字の学習では、正しい鉛筆の持ち方、正しい書き順で形よく文字が書けるよう繰り返し指導し、小テスト等を活用して定着を図る。また、学習した文字を使っの「言葉集め」や「短文作り」「読書」を通して語彙を増やすようにする。	◎話す・聞く活動を通して相手に伝わるように順序を考えて話すこと、声の大きさや速さなど、機会があるごとに意識させて指導する。 ・説明文の学習では、形式段落相互の關係に着目し、意味段落を意識して読み進めていくことで文章のまとまりを捉えられるように指導する。 ・漢字小テストと復習を繰り返し行うことで、文字が正しく定着できるようにする。
2年	5年
◎身近なことや経験したことについて書く活動を通し、文章を書くときのきまりや観点を意識させ、改行や助詞、促音や拗音、濁音を正確に記述することを身に付け、相手に伝わる文章が書けるよう指導する。 ・話し合い活動を継続的に行い、相手の思いを受け止めて話を聞く姿勢を身に着けてられるようにする。 ・漢字のミニテストを継続して行い、間違えた字を正しく直すことで、確実な定着を図る。	・話す・聞く活動を通して相手に伝わるように順序を考えて話すこと、声の大きさや速さなど、機会を多く設け、より一層表現力を伸ばしていく。 ◎漢字小テストと復習を繰り返し行うことで、漢字を正しく書くことができるようにする。 ・日常的に文章を書く機会を授業の中に取り入れる。「はじめ・中・おわり」の構成で、相手や目的を意識して、長い文章を書く機会も定期的に設けていく。
3年	6年
・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで内容をつくったり、段落相互の關係に注意して、文章の構成を考えたりして、書くことができるように指導する。 ◎ペア対話・小グループでの話し合い活動を効果的に取り入れ、どの児童も発言をし、意見を交流する場を整える。 ・国語辞典を積極的に使用して、語句を増やし、伝いたいことを明確にして文章を書くことができるようにする。 ・漢字のミニテストを継続して行い、間違えた字を正しく直すことで、確実な定着を図る。	・文章を書く際には既習の漢字を使っていくように指導する。目的や意図に応じて相手に伝わるような書き方を意識させる。 ◎段落構成については、「初め・中・終わり」を捉えさせ、それぞれの段落の役割や要点を明確にし、段落相互のつながりを意識させて考えられるようにする。また、文章を書く際にも生かすようにさせる。 ・説明や手順、発言を正しく聞き取ること、意図を捉えることを意識させ、日常的に取り組めるようにする。

社会科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

現4年	現5年	現6年
- 大田区の土地活用や地形の特徴、方位の意味理解について、徹底を図る必要がある。 - 地図資料やグラフの丁寧な読み取りやそれらを活用して自分の考えを表現することに課題がある。	- 都道府県名の習得に努めた結果、各単元の内容を理解し身に付けることができた。 - 地図資料やグラフの丁寧な読み取りやそれらを活用して自分の考えを表現することに課題がある。	- 具体的資料を活用して必要な情報を集め、精選し、ノートやタブレットに記録したことを全体と共有する活動を通して、課題に適した情報収集能力が高まった。 - 問題解決的な学習の進め方が理解できたため、単元全体での学習への興味・関心をもつことができた。 - 資料を総合的に読み取る力には個人差が見られる。

2 「大田区学習効果測定」結果の分析

4年	5年	6年
- 平均正答率は「基礎」「活用」とともに目標値を上回っている。 - 領域別正答率では、「くらしの移り変わり」が目標値と同じだった。	- 平均正答率は「基礎」「活用」とともに目標値を上回っている。 - 領域別正答率では、「ごみの処理と利用」について資料の読み取りに課題がある。	- 平均正答率は目標値をわずかに下回っている。 - 活用において、目標値を大きく上回っている。 - 領域別では、「農業や水産業」については目標値を上回っているが、「工業生産」や「産業と情報のかわり」では目標値を下回った。

3 授業改善策

全校の取り組み	
- 写真やグラフなどの資料をよく見て、比較しながら考えたり、調べたことから自分で考えたことを表現したりできるような学習活動を展開していく。 - 社会的事象への疑問や気付きから学習問題を立て、視点を明確にして問題を追究させ、問題解決的な学習過程で授業を進めていく。また、各単元の要点事項を確実に理解させる。 - 方位（東西南北）や都道府県、世界の国々の位置についての理解定着のため、様々な場面において地図帳を活用して学習を進められるようにする。4年以上は、総合的な学習の時間や理科の学習との関連を図る。 - I C T機器を活用して児童の視覚で分かりやすい資料の提示を実践していく。	
3年	5年
◎地域の様子を的確に観察・調査し、具体的資料を読み取ったり、活用したりして必要な情報を集め、まとめる機会を設け、全体でも検証する。 ・見学の際にメモした内容や、学習したことを、自分の言葉で新聞などにまとめさせる。 ・学習した事柄と自分も含めた地域の人々の生活との関連を考えさせる。	・基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るため、授業内での用語の確認や、表やグラフの読み取りなどを丁寧に行っていく。 ・具体的資料を活用して必要な情報を集め、読み取ったり、まとめたりする。読み取りのポイントを示すことで、精選して、ノートに記録する活動の充実を図る。 ◎複数の資料の中からめあてに合った資料を選択し、社会的事象の意味や特色について考える場面を設定し、自分の考えを表現できるようにする。

4年	6年
・調べ学習において、適切な調べ方を理解し、各種資料を用いて自分の考えを表現することができるようにする。 ◎具体的な資料を活用して必要な情報を集め、読み取ったりまとめさせたりする。その際に、読み取りのポイントを示したり、読み取るための時間を十分に確保したりする。 ・資料の読み取りの場面では、複数の資料の中からめあてに合った資料を選択し、社会的事象の意味や特色について考える場面を設定し、自分の考えを表現できるようにする。 ・都道府県などの基本の学習の定着を図るため、繰り返し学習を行う。	◎資料の読み取りの場面では、何を調べるのかを明確にし、学習を進める。そのことで個人の学びへ向かう力を育むことをねらう。また、資料の読み取りのあとに、調べたことを共有・整理することで、様々な視点からまとめにつなげられるようにする。 ・複数の資料の中からめあてに合った資料を選択し、社会的事象の意味や特色について考える場面を設定し、自分の考えを表現できるようにする。

算数科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

現1年	現4年
	・日常の中で具体物を用いて時刻や時間・長さ・重さについての指示をするなど、意識的に触れる機会を増やし、定着してきた。 ・四則計算では、個人差がある。引き続き定着を図る指導が必要である。 ・図形の学習では、繰り返し作図の練習をさせ、作図の技能を身に付けさせたが、個人差が大きく、引き続き定着を図る指導が必要である。
現2年	現5年
・文章問題から大事な言葉を見付けたり図に表したりすることで、その関係を式に表すことができるようになってきたが、問題場面を正しく判断できるかについては、課題が残る。 ・時間の概念の理解や、くり上がりやくり下がりのある計算については個人差が大きい。基礎的・基本的な内容の定着を引き続き図る必要がある。 ・長さや水のかさの量感を確かめる問題では、課題が残る児童が多い。	・自分の考えについて図や表、式や言葉を用いて考えたり説明したりできるようになってきた。 ・学力の個人差が大きく、計算ドリルを反復し、習熟を図ったが、タブレットで行うドリル学習なども活用し、引き続き定着を図る指導が必要である。 ・立式の根拠を説明できないことが多く、図などに問題の場面を整理し、分かりやすく説明する練習が必要である。
現3年	現6年
・図や式・言葉で自分の考えを書き、意欲的に伝えるようとする児童が増え、互いの考え方の差異点や共通点を検討できるようになってきた。 ・ドリル学習等で基礎・基本の習熟を図ったが、まだ個人差が大きく、引き続き定着を図る指導が必要である。 ・特に時間の概念や、測定の領域に課題が残る児童が多い。	・図や表、式や言葉を用いて考えたり説明したりできるようになってきた。 ・「なぜ、そうなるの？」という一歩踏み込んだ問いかけに、既習事項を活用して説明できる児童が増えてきた。 ・学力の個人差が大きく、ステップ学習等で基礎・基本の習熟を図ったが、引き続き定着を図る指導が必要である。

2 「大田区学習効果測定」結果の分析

4年	5年	6年
・平均正答率は「基礎」「活用」とともに、上回っている。 ・領域別では、どの領域でも目標値を上回っている。 ・問題の内容別正答率では、どの問題も目標値を上回っている。	・平均正答率は目標値、区平均を「基礎」「活用」とともに上回っている。 ・領域別では「いろいろな形」の作図のみ目標値を下回っているため、課題である。	・平均正答率は目標値を上回っている。「基礎」「活用」共に上回っている。 ・いずれの領域も目標値を上回っているが、「データの活用」については他の領域よりも平均正答率が低い。

3 授業改善策

全校の取り組み	
・区ステップ学習等を活用して基礎・基本を徹底し、底上げを図る。 ・学び合い活動（ペア学習・グループ学習等）を取り入れた学習形態を工夫する。 ・多様な考え方を引き出し、数学的な見方・考え方を働かせて、数学的な資質・能力を育む。	
1年	4年
◎具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして、数の合成・分解や計算の仕方を考え、立式の判断が正しくできるようにする。 ・問題場面を具体的にイメージしたり、キーワード（「あわせて」「ちがいは」「なんばんめ」等）に焦点を当てたりして、意味理解を深めるようにする。 ・時刻の読み取りや計算の習熟を図るため、宿題や日常生活の中でも継続して反復練習をさせる。	◎一問一答ではなく、様々な視点から意見を出し合って考えを深める問題解決学習の授業を進めていく。 ・他者の違う考えを聞き、いろいろな解き方を知り、文章や図などから必要な情報を読み取り、自分の言葉で説明できるように指導していく。 ・児童の実態に応じて、問題把握のために具体物や半具体物、ICT機器などを効果的に用いる。 ・四則計算の習熟を図るため、反復練習をさせる。
2年	5年
◎具体物の操作や言葉、数、式、図による表現により問題場面を正確に捉え、立式の判断が正しくできるようにする。 ・自分と友達の考えを比べて共通点や相違点に気づき、考え方の共通理解を図る。 ・数の構成や相対的な大きさについて正しく表せるように、反復練習による定着を図る。 ・日常生活でも、時計の読み取りや時間の計算、単位の読み取りや計算を行う機会を設け、継続的な習熟を図る。	◎計算・作図等を反復練習させ、基礎技能を高める。 ・集団での検討を重視し、互いに自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりする学習活動を取り入れ、内容の理解をより深められるようにする。 ・児童の実態に応じて、問題把握のために具体物や半具体物、ICT機器などを効果的に用いる。
3年	6年
・日常の中で具体物を用いて時刻や時間・長さ・重さについての指示をするなど、意識的に触れる機会を増やす。 ◎集団での検討を重視し、互いに自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりする学習活動を多く取り入れる。 ・図形の学習では、繰り返し作図の練習をさせ、作図の技能を身に付けさせる。	・計算・作図等を反復練習により、基礎技能を高める。 ◎1つの問題に対し多様な方法で解決し、それぞれのよさを確認する。また、ノートにそれらの思考過程を残し、振り返れるようにする。 ・集団での検討を通して、互いに自分の考えを表現したり、友達の考えを読み取ったりする学習活動を多く取り入れる。その中で学んだ新しい考えを、類題等で活用させる。 ・振り返りの活動を取り入れることで、数学的な見方・考え方を育む。 ・「なぜ、そうなるの？」と本質を問うような発問に、既習事項を活用して説明できる力を育む。

理科 授業改善推進プラン

1 昨年度（旧学年）の授業改善推進プランの検証

現4年	現5年	現6年
・観察・実験の際に、比較したり細部に目を向けたりするなどの視点を明確にした。 ・気づきについて話し合う時間を設定し、気づきの質を高めた。 ・問題解決の過程を経た学習を繰り返すことで、知識・理解の定着を図った。自分で育てる活動を通して、身近な植物に親しみ、進んで観察した。	・単元毎に振り返りの時間を設け、正しい用語を用いてまとめる学習を積み重ねた。 ・ノート指導を定着させ、予想や理由、実験計画や結果、考察などをしっかりと記述するようにし、問題解決の学習過程を身に付けさせた。 ・ICT機器や具体物を活用することで、既習事項や実験方法に対する理解を深めることにつながった。	・予想を基に、条件制御の考え方をを用いて解決の方法を導けるようになった。 ・多くの実験を通して、実験器具の確認や既習内容を取り上げ、実感を伴った理解を図ることができた。 ・根拠のある予想をもたせることで、解決の見通しをもたせ、自分で解決しようとする意欲を高めた。

2 「大田区学習効果測定」結果の分析

現4年	現5年	現6年
・平均正答率は、「基礎」「活用」が目標値を上回った。 ・領域別では、「物質・エネルギー」「生命・地球」のどちらも目標値を上回っている。 ・問題内容別正答率をみると、「物の重さ」の知識の理解が不十分だったといえる。	・平均正答率は、「基礎」「活用」とともに目標値を上回っている。 ・内容別では、「電気のはたらき」「月と星」「自然の中の水」で目標値を下回っている。	・平均正答率は、目標値をわずかに下回っている。 ・領域別では「物質・エネルギー」「生命・地球」が目標値を下回っている。 ・内容別では「顕微鏡の使い方」は、目標値を大きく下回っており、知識の定着が不十分であると言える。

3 授業改善策

全校の取り組み	
・観察、実験の技能が身に付くようにするため、理科室の学習環境を充実させたり、見通しをもって観察・実験を行う授業を行ったりする。 ・予想や気づきについて話し合い、気づきの質を高める。考察は、話し合い活動を通して共有化し、より客観的に考えさせるようにする。自分の考えをもつ際には根拠を説明できるようにする。 ・教科書の練習問題を活用したり、タブレットを活用することで知識・理解の定着を図る。	
3年	5年
・観察・実験の際に予想をする活動を設け、比較したり、細部に目を向けたりするなどの視点を明確にする。 ・知識・理解の定着を図るために、学習後しばらくの期間を経てから復習する機会を設けたり、教科書の練習問題を活用したりする。	・条件制御について理解した上で実験を行い、量的変化や時間的変化に着目して調べさせる。 ◎予想や仮説を基に、条件制御の考え方をを用いて解決の方法を導けるようにする。 ・実験器具を使う時には、正しい名称や使い方を徹底して使用することで、知識・技能の向上を図る。
4年	6年
・問題解決の学習過程が分かるように、項目ごとにノートに記述させる。 ◎重さの見積もりやはかりの読み取りの問題について、生活経験を基に根拠のある予想を立て、実測を正確に行うことができるようにする。 ・単位の理解を算数の時間などにも行い、内容の定着を図る。	◎要因や規則性、関係を推論しながら観察、実験を行い、計画的に探究させる。 ・単元毎にタブレットを活用して、知識・理解の確認の時間を設ける。 ・日常生活の中や、新しい単元の導入の場面では、既習内容を適宜取り上げ、再定着を図る。

生活科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

現 2年	・「町たんけん」は2回たんけん日を設定したことで、自分が興味をもったことを深く調べることができ、町の人や場所に親しみや愛着をもつことができた。 ・動植物を育てる際に児童が自ら主体的に活動ができるように、動植物の変化や様子に目を向けさせるよう、意図的に声を掛けるなどして、しっかり向き合えるようにできた。気付きに共感したり、それを学級全体に広めたりすることで、児童の活動意欲を高めることができた。 ・気付いたことを適切に表現できるように、見る視点を提示することや、児童のよい表現を全体に広げる、他教科の学習と関連させるなどして表現力を身に付けさせることができた。
---------	--

2 課題（重点）

1年	・校舎全面改築のため校庭の環境が不十分だったことで、1年間を通して四季の変化に気付いたり、自然を十分遊びに生かしたりすることが難しかった。 ・朝顔の世話や「わたしのはなをそだてよう」での笑顔を集める活動（家庭・学校）では、気付きや表現、取り組み方に個人差が見られた。
2年	・モルモットの世話では、意欲に差があり、班の中で任せきりになるところもあった。 ・自然と触れ合う学習では、校舎全面改築のため校庭や裏庭がなかったことで、1年間を通して四季の変化に気付いたり、自然を十分遊びに生かしたりすることが難しかった。

3 授業改善策

1年	・「きせつとなかよし」では、状況に応じた活動を工夫し、児童が主体的に考えて活動できるよう児童の思いを大切に、自然物や場の設定に配慮しながら学習を計画する。 ・動植物を育てる際に児童が自ら主体的に活動ができるように、動植物の変化や様子に目を向けさせるよう、意図的に声を掛けるなどして、しっかり向き合えるようにする。気付きに共感したり、それを学級全体に広めたりすることで、児童の活動意欲を高める。 ・気付いたことを適切に表現できるように、見る視点をみんなで話し合う、よい表現を全体に広げる、他教科の学習と関連させるなどして表現力を身に付けさせる。
2年	・モルモットの世話では、班で役割分担を行い、一人一人が責任をもって活動できるようにする。「1年生にモルモットの世話の仕方を教えよう」というめあてをもち、積極的に世話をしようとする意欲を高める。 ・「きせつあそび」では、状況に応じた活動を工夫し、児童が主体的に考えて活動できるよう児童の思いを大切に、自然物や場の設定に配慮しながら学習を計画する。

音楽科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

昨年度は基礎的な技能の定着と表現力の向上を目指した。自分の思いや意図を表現するためには、表現するための技能が伴わなければならないため、全学年通して基礎的な技能の定着を図ってきた。個人差が大きいため、児童理解を徹底するとともに、適宜個別対応をとりながら、一人一人の課題を解消できるように指導の工夫を行っていく。

2 現在の分析

内容別	表 現		鑑 賞
	・歌唱、器楽の学習では、高学年でも苦手意識をもっている児童が少ないため、一人一人が意欲的に表現しようという姿勢がみられる。技能面では個人差が大きいため個別対応が必要である。 ・音楽づくりでは、音をよく聴きながら柔軟な発想で音楽づくりに取り組んでいる。		・楽曲を聴いて、曲想の変化を感じ取ったり、曲想と音楽の要素とを関連付けながら聴いたりすることができる。鑑賞の授業だけでなく、歌唱や器楽の学習の中でも楽曲を聴いて、曲想の変化に気付くことができる児童が増えてきている。
観点別	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
	・音楽の基礎的な知識・技能が定着している児童とそうでない児童の差が大きい。4つの分野の学習を通して基礎的な音楽的技能の定着を図っていく。	・学年を問わず、音楽を通して自分の思いや意図を表現しようとする気持ちは高い。しかし、思いや意図を表現したくても技能が伴っていない児童もいるため、基礎的な技能の定着を図っていく。	・意欲的に学習に取り組んでいる。自分の課題を解決するために、練習計画を立てたり、自主的に学習を進めたりしている様子がみられる。音楽に対して苦手意識をもっている児童もいるため、個別対応など指導の工夫が必要。

3 授業改善策

1年	・鍵盤ハーモニカの演奏技能の個人差が大きいため、余裕をもった指導計画を立てたり、適宜個別指導を行ったりしていく。 ◎常時活動にリズム学習を取り入れて、音楽に合わせて体を動かしたり歌ったりして、リズム感や拍感を身に付けることができるようにする。
2年	・拍の流れにのってリズムを打ったり歌ったりできるように、常時活動にリズム遊びを取り入れて、音楽の基礎的な能力の定着を図る。 ◎2年生で扱う楽器の基本的な奏法を身に付け、拍の流れにのって友達の音に合わせて、楽しく演奏できるようにする。
3年	・ト音記号の楽譜を読めるように、1学期から楽典についての学習を適宜取り入れていく。 ◎リコーダーの基本的な奏法（タンギングや息のコントロール）が定着できるように、リコーダーの教材選択を工夫したり、反復練習を大なったりして、美しい音色で演奏できるようにする。
4年	・地声から頭声発生へ意識を向けるようにしたり、頭声発生で歌えるための基礎練習を適宜取り入れたりして、響きのある歌声を目指す。 ◎合奏の学習では、自分だけでなく友達の音を聴きながら演奏したり、友達と響きを揃えて演奏したりする意識を育てる。
5年	◎歌唱では、響きのある声を意識して腹式呼吸や頭声発生を基礎とした、歌い方を身に付けることができるようにする。

	・器楽の学習では、友達の音を聴きながら演奏したり、友達の演奏を聴いて互いにアドバイスをし合ったりして聴く力も育てていく。
6年	◎表現の学習では、他者と音楽を調和させながら演奏できるように、聴く力と表現する力を同時に育てていく。 ・鑑賞の学習では、作曲者の思いや意図を感じ取ったり曲想と音楽の要素との関わりに気付いたりすることができるように、教材選択の工夫や指導の工夫を図る。

図画工作科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・可能な限り時間的にゆとりをもち、経験値を増やすために様々な用具や素材を用いてチャレンジしている。児童の実態を見ながら、課題設定をしているので、意識の高まりを感じる。しかし、中には、2時間継続して集中できない児童もあり、スモールステップでの活動が必要な児童も存在する。
- ・見通しをもって学習できるように板書で手順などを示してはいるものの、理解できなかったり、時間内で作り終えることができなかったりする児童がいる。早く終えた児童が、友だちをサポートするなど互いに協力し合うことができる児童が数名いる。
- ・早くに仕上げることを優先し、画一的な表現で満足する児童も若干名だが存在するため、発想を広げたり、表現方法を自分で選んだりするなど、児童の創意工夫を引き出す手だてが今後必要と考える。
- ・一人ひとりの思いを大切に、完成作品を大切にする気持ちを育むとともに、互いを認め合う姿勢を身に付けていく必要がある。
- ・大型ディスプレイを用いて作品紹介や鑑賞を通して、見る、考える、話す、聞くことを繰り返すことで、コミュニケーションを盛んにし、感じたことを言語化することに慣れつつある。作品説明や工夫について意識を高めるためにも、言葉で表現する力を育てていく必要がある。
- ・タブレット端末を用いて、作品を各自で撮影し、題名や吹き出し、解説などを付け互いに鑑賞していた。またそれを成績の記録などでも活用できた。

2 現在の分析

	A 表 現	B 鑑 賞	
内容別	・自分の表したいことを見付け、どのように表すかを考えて、自分の表現を大切にしている。 ・よりよく表すために、助言を受け入れたり、自身でも試行錯誤したりするなどして手を加えることができる児童は数名である。 ・完成度にも差があり、完成に至るまでの時間差が大きい。	・自分たちの作品の面白さや楽しさについて感じ取ったり考えたりして、見方や感じ方を広げている。（低） ・自分たちの作品やつくり方のよいところや面白さについて考え、見方や感じ方を広げている。（中） ・造形的なよさや美しさについて考え、見方や感じ方を深めている。（高） ・文章表現が上手な児童は、表現の工夫や感じたことを詳しく伝えることができるが、言語表現が苦手な児童の鑑賞の力が見取りにくい。	
観点別	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
	・安全に用具を使うことを学び、正しく使うことができている。 ・様々な材料を使う機会を通して、それぞれの材料や用具の特徴を生かした表現ができる児童が増えている。 ・指に力が入らず「基礎的・基本的な技能」が不十分な児童も若干存在する。	・新しい課題に入る際、前時に課題を告知しているので、予めイメージを想起している児童が多く、児童は、課題に興味をもち、豊かな発想を生かしている。 ・思考の深まりに個人差があり、作品の完成度にも差がある。 ・気づきや工夫について述べているふり返りカードを見ると、めあてに対する意識に個人差が大きい。	・図工を楽しみにしている児童が多く、扱う素材や用具にも関心を寄せている。 ・友だちの力を借りたり、教え合ったりする姿も見られ、協力し合う姿が見られる。 ・おしゃべりに夢中になってしまい、本来の活動がおろそかになる児童も若干名存在する。

3 授業改善策

1年	・専門知識が豊富な図工専科の教員が指導することで、児童の発想を豊かに引き出しながら、場面や各児童に応じた、より専門的な指導・助言・支援を行っていく。 ◎いろいろな素材に出合う場面を設定し、造形的な面白さや楽しさについて考え、見方や感じ方を広げられるようにする。 ・道具の使い方を繰り返し指導し、安全に留意しながら活用できるようにする。 ・造形遊び等の活動も含め、児童の着想や表現プロセスにおいても価値づけていく。
2年	・各題材において必要な基礎技能の習得を徹底し、単元を通し各自が工夫して活用できるようにする。 ◎いろいろな素材に出合う場面を設定することで、造形的な面白さや楽しさについて考え、見方や感じ方を広げられるようにする。 ・出来上がった作品にあらすじを書くなどして、想像する喜びや楽しさを味わえるようにする。 ・造形遊び等の活動も含め、児童の着想や表現プロセスにおいても価値づけていく。
3年	◎各題材において必要な基礎技能の習得を徹底し、単元を通し各自が工夫して活用できるようにする。 ・いろいろな素材に出合う場面を設定することで、造形的なよさや面白さについて考え、見方や感じ方を広げられるようにする。 ・作品に物語性をもたせ、文章表現することで、構想を練ったり発想したりする力を育てていく。 ・造形遊び等の活動も含め、児童の着想や表現プロセスを大切にし、評価の方法を工夫する。
4年	◎各題材において必要な基礎技能の習得を徹底し、単元を通し各自が工夫して活用できるようにする。 ・作品に物語性をもたせ、文章表現することで、構想を練ったり発想したりする力を育てていく。 ・図案などは、できる限り事前に内容を知らせておくことで前もって決めておかせますが、図鑑やタブレットを利用し資料検索ができる環境を整えておき、構想を練るための支援をする。 ・児童の着想や表現プロセスを大切にし、評価方法を工夫する。
5年	◎各題材において必要な基礎技能の習得を徹底し、単元を通し各自が工夫して活用できるようにする。 ・作品に物語性をもたせ、文章表現することで、構想を練ったり発想したりする力を育てていく。 ・タブレットを活用し、構想を練ったり、よさや美しさについて比較しながら試行錯誤したりできる環境を整える。 ・活動予定を知らせ、工程の目安を示すことで、児童が見通しをもてるようにする。 ・協働の機会を設けることで、個人のことのみにならず、全体を意識し協力し合うことでもたやす成果に気づかせる。
6年	◎6年間の集大成として、これまでの経験を活かして素材や用具を自ら選択して表現できる場面を設定する。 ・作品に物語性をもたせ、文章表現することで、構想を練ったり発想したりする力を育てていく。 ・タブレットを活用し、構想を練ったり、よさや美しさについて比較しながら試行錯誤したりできる環境を整える。 ・活動予定や工程の目安を示すことで、児童が見通しをもって活動できるよう支援する。 ・協働の機会を設けることで、個人のことのみにならず、全体を意識し協力し合うことでもたやす成果に気づかせる。

※全学級において、日直は黒板に板書してある「めあて」見て、自分なりの目標を言ってから授業挨拶をすることを習慣づける。それを行うことで、全員の意識づけにもなると考えている。

家庭科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

<現6年>

- ・調理実習では、作業手順が分かるように、実物教材や視聴覚教材等を示すことで、自信をもって取り組めるようになった。
- ・学習したことを家庭で実践できるように、ワークシートを活用して、家庭の協力を得ながら実生活に役立つ技能の習得に取り組むことができた。

2 課題（重点）

5年	・生活経験や興味によって完成度や進度に差があるため、初めての調理実習や裁縫で個々の児童に応じた技能の習得と支援が課題である。 ・学習したことを実生活に生かせるよう、家庭との連携が必要である。家庭によって協力が差があることが課題である。
6年	・裁縫では、はじめに全員が共通課題に取り組むことで、それをもとに各自の作品を計画し、完成させることができた。しかし、はじめの共通課題の理解と技能に差が、その後の製作であることは課題である。 ・調理では、家庭でのサポートによって技能の習得に差が出てしまうことは課題である。

3 授業改善策

5年	・調理実習では、一人一人が材料を切ったり調理したりできるように、単元によって一人調理の形態を取り入れる。 ・実習前の学習でも、模造品を用いて実際に手順を学習するなどの工夫をする。 ・裁縫・調理の仕方の作業手順が分かるように、実物教材や視聴覚教材等を示すことで、自信をもって取り組めるようにする。 ・身に付けた技能を生かせる学習単元を設定し、学習に対しての楽しさや活用する喜びを味わわせる。
6年	・調理の仕方の作業手順が分かるように、実物教材や視聴覚教材等を示すことで、自信をもって取り組めるようにする。 ・調理や裁縫以外の学習内容にも興味・関心をもてるよう、あらかじめ家庭でのインタビューや調べもの等の課題を出すなど、意欲的に取り組める工夫をする。 ・調理実習では、一人調理の形態を取り入れ、技能の習熟を図る時間を確保する。 ・学習したことを家庭で実践する機会を設け、家庭との連携を図る。 ・裁縫や調理およびそれ以外の学習でも、生活と環境のつながりを意識できる課題に取り組むことで、持続可能な社会にするために家庭生活の中でできることを考え実践しようとする態度を育む。

体育科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

現2年	現4年
・明確なめあてをもち、友達同士でコツやポイントを確認し合うことを意識できるような時間を確保し、次に生かせるようにした。 ・走の運動遊びでは、友達同士で見合ったり教え合ったりする時間を設けることで、スモールステップで達成感を味わい、意欲をもって運動に取り組むことができた。 ・最終的な目標を示し、見通しをもたせたうえで、簡単なルールからゲームを始めることで、楽しくゲームに参加できた。 ・体づくりの運動遊びではグループごとの活動とすることで、友達同士でアドバイスできるようにしていく。	・体育の授業の冒頭で、その授業の目標（めあて・ねらい等）を児童に示すことで、めあてを意識して運動に取り組む児童が増えてきた。 ・授業中に友達同士で教え合ったり、コツやポイントを確認し合ったりする取り組みを促していく。
現3年	現5年
・自分の体の操作を上手にできるように、体づくり運動でいろいろな動きを経験させた。 ・学習のめあてを示し、グループで活動する機会を設けることで、自分たちで達成感を味わい、意欲をもって運動に取り組むことができた。 ・学習カードを工夫したり、様々な運動を紹介したりすることで、体力の向上を意識させるようにした。	・児童一人一人に技能に関する具体的なめあてをもって学習に取り組ませ、振り返りをさせることで次の学習に生かそうとする姿勢が身に付いてきた。 ・ICT機器での学習カード等を用いて児童同士が励まし合い認め合う場を多く設定することで、意欲的に運動をする児童が多くなった。
	現6年
	・学習のめあてを明確にし、自己評価や友達による他者評価を行うことで、運動の仕方を工夫できるようにした。友達との教え合いや作戦についての話し合いも自分たちから行えるようになり、集団規律や個々の技能の向上につながった。 ・授業に関連する動き（補助運動）を取り入れた準備運動を行い、主運動の時間を十分とって運動量を確保することができた。

2 昨年度の体力テスト結果

現1年	現4年
	・男子はどの種目においても全国平均を下回った。 ・女子は、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「50m走」が全国平均を下回った。
現2年	現5年
・男子は「反復横跳び」以外の種目において全国平均を下回った。 ・女子は、「ボール投げ」「50m走」「20mシャトルラン」「反復横跳び」が全国平均を下回った。	・男子は、「立ち幅跳び」「20mシャトルラン」が、全国平均を下回った。 ・女子は「反復横跳び」のみが全国平均を下回った。
現3年	現6年
・男子は、「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」において全国平均を上回っている。 ・女子は、「長座体前屈」「反復横跳び」において全国平均を上回っている。	・男子は「ソフトボール投げ」が全国平均を下回っている。 ・女子は、「長座体前屈」「反復横跳び」「50m走」「ソフトボール投げ」において全校平均を下回っている。

3 授業改善策

全校の取り組み	
・学校全体で統一した指導を行うようにし、集団行動のきまりを徹底する。 ・体育的活動として「短なわ跳び」や「長なわ跳び」、「コーディネーショントレーニング」を行う。各学級目標をもって取り組み、体育以外の時間も活用して行う。	
1年	4年
・学習カードの内容を工夫し、一人ひとりがめあてをもって意欲的に運動に取り組めるようにする。 ・コーディネーショントレーニングを取り入れる。 ・体育指導補助員を活用することで、複数体制の指導が可能になる。その利点を生かし、スモールステップで達成感を味わい、児童が意欲をもって運動に取り組めるようにする。	・学習カードを活用し、めあてを立てさせるとともに、達成できたかを振り返る時間を設定する。 ◎授業中に技のポイントを重点的に指導し、児童同士が関わりあえる機会を増やすことで、教え合う活動を促していく。 ・年間を通して短なわや持久走、の運動に取り組ませることにより、運動量の確保を充分に行い、児童の体力向上に努める。 ・コーディネーショントレーニングを取り入れる。
2年	5年
◎苦手な分野の運動にも積極的に挑戦する意欲を伸ばすため、運動遊びを行う場の工夫をしたり、動きを感覚的に掴ませる機会を設けたりする。 ・体育指導補助員を活用することで、スモールステップで達成感を味わい、意欲をもって運動に取り組むことができるようにする。 ・單元ごとの振り返りを充実させ、自分自身で学びや成長を実感できるようにする。 ・コーディネーショントレーニングを取り入れる。	◎めあてを明確にもたせ、自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫できるように、自分の力に合った運動の行い方を選べるように助言する。 ・タブレットやデジタル教材、映像等を活用し、自分の動きを見たり、よい動きを見合ったりする活動を積極的に取り入れる。 ・勝ち負けにこだわり過ぎず、みんなで協力して運動を楽しもうという意識で取り組めるよう、励まし合ったり支え合ったりする活動をさまざまな場面で取り入れる。
3年	6年
・学習カードを活用し、めあてを立てさせるとともに、達成できたかを振り返る時間を設定する。 ◎体の動かし方を具体的に示し、活動時間を確保することで各種の運動を十分に経験できるようにする。 ・自分たちで成長できた実感をもたせるために、チームでの活動を多く取り入れ、学級に広めるようにする。	◎めあてを明確にして上達方法を考えさせたり、チームで話し合って取り組ませたりする。教え合いや助言を普段から継続して行うようにする。 ・準備運動でストレッチなどの柔軟運動を継続して行うようにする。 ・コーディネーショントレーニングを取り入れる。

外国語科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

<現6年>

- ・アルファベットを書く活動や、チャンツや歌で単語と発音を覚える活動を通して、アルファベットを正しく書いたり、英単語を聞き取ったりすることができるようになった。
- ・英語を使ってプレゼンテーションする学習を通して、英語の文章を作ったり、相手に言いたいことが伝わるように工夫したりすることができるようになった。
- ・ALTや留学生と英語で積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が高まっている。

2 課題（重点）

5年	・アルファベットを正しく書くことについて個人差が大きい。特に小文字の書き方を習得していない児童が多く、文章を書く活動で個人差が非常に大きくなっている。 ・文を書く際のきまり（大文字と小文字の使い分け、文末にピリオドを打つ、など）を理解していない児童が多い。 ・カタカナ英語のような発音の児童が多い。 ・英語に強い苦手意識をもっている児童が2割程度おり、スムーズに活動に取り組めないことが多い。
6年	・学習効果測定の結果について、教科全体の平均正答率は目標値を上回っている。 ・領域別の正答率でみると、「聞くこと」「書くこと」に関しては、目標値を大きく上回っているが、「読むこと」に関しては、目標値をわずかに上回っている。 ・苦手意識なく英語を聞き取ったり、書いたりする活動に個人差がある。 ・簡単な英語を用いて、説明したり、コミュニケーションをとったりすることができるようにはなっているが、目的や場面、状況に応じて話したりすることについては課題がある。

3 授業改善策

5年	・英語を書く活動を取り入れたりアルファベットを書く練習を取り入れたりすることでアルファベットの書き方についての習熟に努める。 ・英語の歌やチャンツなどを取り入れ、児童が意欲的に英語に親しめるようにする。 ・友達との英語を使った交流活動を行うことで英語を使ってコミュニケーションをすることの楽しさを味わわせる。
6年	・チャンツや歌を通して、外国語に親しむ時間をつくるようにする。 ・目的や場面理解のために、教科書の具体的な場面を活用しながら、話したり、聞いたりする活動を充実させる。 ・音声で慣れ親しんだ外国語の語彙や、基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりさせるようにする。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションをとれるようにする。